

(2)釜石市立鵜住居小学校の取組

沖 拓 (釜石市立鵜住居小学校 教諭)

- 1.鵜住居小学校は震災で学校も地域も大きな被害を受けました。今も多くの子が仮設住宅に住んでおり、学校も仮設校舎で多くの支援をいただきながら学校運営に取り組んでいるところです。亡くなった方のためにも被害を受けた者だからこそ残せるものや、やれる防災教育があるのではないかと考えて防災教育を進めているところです。
- 2.防災教育を通して命を大切にする子、震災・津波の体験を語り継ぐことができる子、釜石の再生・復興に力を尽くし、未来を作ろうとする子を育てたいと考えています。
- 3.今年度の取り組みとして毎月11日を「命を大切にする日」として、防災だよりをもとに全校で指導しています。4月と6月の校内研でこれまでの経緯やこれからの方向性、進め方を確認して職員の共通理解の場としています。
- 4.1・2学期で授業を進めて、1月の校内研で反省をし、次年度に生かすようにしています。年計に基づいて進めるのですが、学年の児童の心の状態や、地域の環境等が常に変化し違いますので、それに合わせて内容を変更していくことが必要となっています。
- 5.震災の記憶のある子どもたちがいるうちは、子どもたちが思っていることや伝えたいことを残すことを意識して行っています。それを、のちに入ってくる子どもたちが防災教育の資料として活用していくことを考えています。
- 6.実践例として防災だよりについて紹介します。防災教育担当が作成した防災だよりを毎月11日にクラスで読み合い、防災について話し合いをします。その防災だよりを家に持ち帰ってただ渡すのではなく、家の人と一緒に読み合いながら防災について家族で話し合うことにしています。
- 7.この防災だよりを通して、重点としている命の大切さについて考え、津波だけではなく様々な災害について児童・学校・家庭・地域で考える機会にして欲しいと進めています。
- 8-9.3年生の実践の紹介です。まずオリエンテーションは海の近くに住む良さや、防災教育の意義について共通理解する大切な時間と捉えて1時間とって行っています。子どもたちに無理はさせないようにしているのですが、震災を経験した皆が防災教育・防災学習をして思ったことを残すことが自分の命だけではなくて家族・地域・未来の子どもた



2 今年度の取り組み

【通年】

- ・毎月11日を「命を大切にする日」とし、「防災だより」をもとに全校で指導。
- ・児童の心のケアの推進(担任・養護教諭・SC)。
- 【4月】校内研→防災教育の経緯・方向性確認
- 【6月】校内研→防災教育の具体的な進め方確認
- ・全職員の共通理解の場。
- ・「釜石市津波防災教育のための手引き」の活用
の仕方を知る。

3

2 今年度の取り組み

【6月～12月】防災教育授業の取り組み

- ・1年生… 5時間(生活、音楽、学活、体育)
 - ・2年生… 6時間(生活、音楽、学活)
 - ・3年生…15時間(総合的な学習の時間)
 - ・4, 5, 6年生…20時間(総合的な学習の時間)
- ⇒年間指導計画に基づき、**児童の実態、地域の状況等を考慮しながら実施。**

- 【1月】校内研→今年度の実践交流と反省
- ・次年度の年計の見直し

4

2 今年度の取り組み

学習を通して作成したものや児童の感想等を蓄積し、後に防災教育の資料として活用する。

震災からの期間	児童の様子	防災教育の学習方法
震災直後から5年後くらいまで	・震災を経験し、記憶もある。	・「命の大切さ」「震災・津波の体験」「復興への思い」「支援への感謝」など、自分たちが思っていることや伝えたいことを形にして表し、残す。
5年後くらいからその後	・震災を経験しているが、記憶がない。 ・震災を経験していない。	・先輩たちが残してきた資料を活用し、震災時の様子や被災者の思い、復興への道筋などを学んでいく。

5

3 実践例(1)防災だより

【項目】

4月	めあて・進め方	防災について、学校・家庭・地域で考えていく。
5月	各地区での避難路の確認	
6月	学校での避難路の確認	
7・8月	大雨・台風災害	3. 11を忘れず、命の大切さ、支援への感謝、釜石鵜住居の復興について考えていく。
9月	特別警報	
10月	大雨・雷・竜巻	家族や友達、周りの人たち、そして自分のことを大切にしてい。
11月	緊急地震速報のしくみ	
12月	緊急地震速報の活用	
1・2月	心のケア・3. 11の迎え方	
3月	校長先生からのお話	

7

ち、それから世界の人たちの命を救うことにつながるかもしれないということを伝えています。

10-11.津波の歴史と被害を知る授業です。「釜石市の津波防災教育のための手引き」を活用しました。石碑に込められた昔の人たちの思いに触れる感想を残している子どもたちもいました。

12-16.学校にいるときの避難マップを作る学習です。どんな学校を作りたいかを考えて、校舎内での危険ポイントを探したり、避難場所までの道の調査を行ったりします。ここでの感想では「道を自分で判断してきちんと決めていこう」という思いを持つ児童もいました。グループでまとめ、模造紙9枚分の大きなマップになりました。マップには記号、メモ、気づいたことなどを書き込んでいます。

17-18.成果と課題です。見通しを持って指導することが必要ですが、児童や地域の状況が毎年異なってくるので、指導内容を変化させていく必要があります。これは新任の職員には大変難しいものです。現にこの2年間で職員の大きな移動があり、特に今年は郷土芸能学習という新たな取り組みも入ってきましたので、なかなか思うように進められていないのが現状です。ただ、管理職の理解やバックアップなど、学校全体としての体制づくりの必要性を感じています。子どもたちの前向きな心を生かした表現の場としながらも、今なお多くいる心のケアが必要な子たちへの配慮は十分に気をつけて進めていく必要があると感じています。

19.マップづくりを始めるときに子どもたちにどんなマップを作りたいかと聞いたところ、1・2年生、保育園児、マップを見たみんなの命を救うためのマップを作りたいと言ってくれました。伝えようという思いをしっかりと持っていると感じた瞬間でした。また、6年生を担当したときに学習発表会で震災についての発表を行いました。親を震災で亡くした子が強いメッセージが込められたセリフをぜひ自分に言わせてくださいと進んで出てくれたこともありました。トラウマを持っている子もいますが、体調に十分気をつけながら防災教育の意義を教員と子どもたちが共通理解をして命を大切にしていこうという思いを持ちながら進めることが大事だと感じています。その思いを小学校の段階で感じてくれることが、やがて釜石のためや、他地域に住むことになった際、そこで防災のリーダーとして動ける人につながって欲しいと思って行っています。

4 実践例(2)3学年「津波から身を守ろう」

①オリエンテーション (1時間)

- ・海の良いところを出し合う。
- ・地域に住まう文化としての防災教育を理解する。
- ・防災教育の意義について理解する。

4 実践例(2)3学年「津波から身を守ろう」

(5)マップにまとめる

5 成果と課題

- (1)「防災だより」全校での継続的な指導。
- (2)年間の見通しを持って推進。
全職員での共通理解の場の設定。
震災からの経過年数や地域、児童の状況に応じて、指導内容を変化させる必要。
だれでも指導できる体制作り必要。

5 成果と課題

- (3)子どもたちの前向きな心。
子どもたちの思いを表現させる場の設定。
- (4)心のケアが必要な児童への配慮。
オリエンテーションを大切に。
無理させない。
複数で指導し、様子を把握する。
- (5)他教科との関連性。

6 おわりに

みんなの命にまつ、みんなの命を救うためのマップを作ろうとみんなが考え言葉を交わしました。

これを見て、いなくなる時にいかに生きてください。

3年生より